

京都エネスコ

2026年（令和8年）1月号

編集・発行 京都ユネスコ協会事務局



カンボジア現地の子供たちとの交流

京都ユネスコ協会学生が参加したカンボジア・スタディツアー（p11 参照）

目 次

2026年を迎えてのご挨拶

ユネスコという人類の希望の灯を、次世代に託すために 吉田敦彦 p 2

京都ユネスコ芸術展 2026

岸上ゆか p 3

国際平和デーセミナー

「ユネスコ教育勧告と私たちの未来」を盛況のうちに開催！ 吉田敦彦 p 4

「近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 In 長浜」に参加して

高見啓子 p 5

「日本ユネスコ運動全国大会 In 金沢」に参加して

加藤功治 p 6

京都ユネスコ寺子屋 旅の学校 2025 を愉しく実施！

吉田敦彦 p 7, 8

こども食堂 花脊プロジェクト

西川紹寛 p 9

ピザ作り体験&パスタ教室

西川昭寛 p 10

カンボジア・スタディツアー（ユースゼミナー）～古矢柚月さんを囲んで～

香戸美智子 p 11

京都ユネスコスクール高校研修交流会

香戸美智子 p 12

英語教室 学習の場

前田久夫 p 13

今後の活動予定

事務局 裏表紙

2026 年を迎えてのご挨拶

ユネスコという人類の希望の灯を、次世代に託すために

会長 吉田敦彦

明けましておめでとうございます。一陽来復。冬至へ向けて闇が深まり、陰が極まっても、また陽に転じて明るいお正月がやってくる。この4文字熟語に、新しい年が一転して平和でありますように、との祈りを込めたいと思います。

あらためまして、旧年中の京都ユネスコ協会への有形無形の御芳志に感謝いたしますと共に、新年もますますのご理解ご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

会長に就任しまして2年目となります。おかげさまで、協会の活動は少しずつ元気に軌道に乗り始めてきました。この場をお借りして報告させていただきます。

先ず何より嬉しいご報告ができますのは、0名だった青年会員が、昨年度5名（うち2名が卒業転居で退会）、今年度に新たに5名が入会して、現在は8名の学生・青年会員が活躍しています。全国的にも深刻な高齢化のなか、注目される成功事例となっています。着任時の総会（下賀茂神社）と今年度の総会（同志社大学）にて、重点方針として、①次世代ユースの活性化、②日ユ協連の助成事業との連携、③常任理事会の実質化という3本柱（3年ヴィジョン）をご承認いただきました。

ユース世代へのアプローチとして、まずユース連続セミナーを6月、9月、12月と開催してきました。アジアユネスコ協会クラブ連盟のユースフォーラムに日本を代表して参加した同志社国際高校3年生をはじめとしたユース活動交流会（6月）、後述する「新ユネスコ教育勧告」の学び合いセミナー（9月）、京都ユネスコ協会推薦でカンボディアスタディツアーに参加した立命館宇治高校2年生の報告セミナー（12月）、といった具合です。

こういったユース参加を支えた活動として、日ユ協連のU-Smile事業の助成を得た子ども食堂（+居場所）や寺子屋（+旅の学校）があります。これへの参加経験を通して、ユースの私たちのユネスコ活動への関心が深まり、繋がってきました。来る3月には、U-smile事業の沖縄研修旅行に、京都ユネスコから子ども2名とアシスタントのユース1名（同志社大学）が参加します。

自然観察展や芸術展、日本語・英語教室などの定番活動も担当の常任理事と事務局の協力で運営できています。それらの様子を、本機関誌の充実した紙面でご報告していますので、ご覧いただければ幸いです。

視野を大きくとれば、世界の情勢は暗雲立ち込め、痛ましいばかりです。このような時代にあって、ユネスコという存在は、その存在意義が問われていますが、ユネスコ関係者にとって一条の希望の光となっているのは、ウクライナやパレスチナの戦禍の最中に、「平和と人権、持続可能な開発のための教育勧告」をパリのユネスコ総会で加盟各国の利害衝突を超えて、実に「全会一致」で採択できた（2023年11月）ことではないでしょうか。これを周知し学び合う講演ワークショップを、国際平和デー（9月21日）にキャンパスプラザ京都のホール満席で開催できたことも、大きな社会貢献となりました。

とはいえ色々と至らぬところも多々ありますこと、自認しております。会員・理事の皆様には、お気づきの点はどうぞ忌憚なく叱咤、激励をいただき、今後の活動にご協力いただければ幸いです。本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

京都ユネスコ芸術展 2026

岸上 ゆか

「昨年度、京都ユネスコ芸術展は5月17日、18日京都堀川御池ギャラリーにて盛大に開催されました。

従来よりも出品者数や点数、ジャンルも増え、ビッグドローやユネスコスクールの参加もあり見応えのある展覧会となりました。

引き続き今年も充実した展覧会を開催したいと思います。平和へのメッセージを込めた個性豊かな作品のご参加を募集します。

ユネスコスクールからの出品を歓迎します。応募作品を選考する事が有ります。

2026 年芸術展の募集要項

会場 堀川御池ギャラリーC

会期 5月23日(土) 11:00～19:00

24日(日) 11:00～17:00

作品搬入 22日(金) 11:00～ 展示作業 :14:00～19:00

搬出 24日(日) 17:00～19:00

*搬入搬出は各自で行う

ジャンル:平面 (日本画、洋画、版画、書など) 立体 (彫刻、ステンドグラス、タペストリーなど)

作品サイズ:平面は壁面 3m まで 立体は 3,2m まで

出品料 3000 円(点数に関係なく)

申し込み締切 :2026 年 3 月 31 日まで

申し込み、お問い合わせ先:京都ユネスコ芸術展 sansenkouki@gmail.com (岸上)まで



昨年度の展示会場風景



ビッグドローでの作品

〈国際平和デー2025〉セミナー

「ユネスコ教育勧告と私たちの未来」を盛況のうちに開催！

吉田敦彦

■京都ユネスコ協会は、日本国際理解教育学会ユネスコ教育勧告特別委員会と共催し、2025年9月21日(日)13時30分～17時、〈国際平和デー2025〉セミナー：「ユネスコ教育勧告を私たちの未来」を開催しました。

■会場のキャンパスプラザ京都2階ホールの定員いっぱいとなる、80名（＋報道関係者1名）の参加を得て、盛況でした。ユネスコ協会関係者14人、教員・教育実践者36人、行政機関2人、市民団体関係者6人、ユース・学生12人、その他10人と多様な背景をもつ参加者が集い、学びあいました。

■第一部（リレートーク）では、主催者から「なぜ今、ユネスコ教育勧告か」（吉田敦彦：京都ユネスコ協会会長）、「ユネスコ教育勧告の世界の受けとめ・広がり」（永田佳之：日本国際理解教育学会会長）、「ユネスコ教育勧告と民間ユネスコ活動」（木間明子：東京都ユネスコ連絡協議会事務局長）について概説した後、参加者の織田雪江さん（同志社中学・高校教員）、岡田明子さん（同志社大学生）、森田育志さん（元教員・大学教職関連部署）、山田文乃（IKUNO 多文化ふらっと）から、自らの活動を踏まえて教育勧告に期待することについてリレートークを行いました。

第二部（ワークショップ）では、ユネスコ教育勧告のカード型教材（勧告の「14の主導原則」の1つ1つに焦点を当て、簡潔な意識と、他者との対話を通して理解を深められる3つの問いを付置したカード型教材）を使い、5～6人のグループで主導原則の理解を深め、学校や地域の教育の可能性と課題解決のために何をいかに変えていけばよいのか？について対話形式のワークショップを実施しました。最後に全体会で、参加者が意見交換しながら、未来へ向けての展望を語り合いました。



第二部（ワークショップ）の風景

■参加者からは、このカード教材を使った授業やワークショップを開きたいという声もありました。ユースの参加者は、若者目線での若者向けの対話教材を創る取り組みも始めています。マルチステークホルダーの連携を図り、平和で持続可能な未来のための教育の実践を推進するという目的にかなうセミナーを開くことができました。

■本セミナーには、日本ユネスコ国内委員会、京都市教育委員会、京都府教育委員会、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター（ACCU）：ユネスコスクール事務局、ESD活動支援センター、近畿地方ESD活動支援センターといった全国規模の後援をいただきました。なお、本セミナーは、日本ユネスコ協会連盟のU-Smile事業の助成を受けて実施されました。

「近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 in 長浜」に参加して

高見啓子

琵琶湖の東、彦根よりやや北にある長浜市は、豊臣秀吉と深い縁のある歴史の町です。10月26日に開催された「近畿ブロック・ユネスコ活動研究会 in 長浜」に、吉田会長、加藤事務局長と共に参加してきました。

掲げられたテーマは『平和の文化・持続可能な地域づくりをめざして』。滋賀県は日本最大の湖である琵琶湖を有し、1970年代の琵琶湖の水質汚染を、市民によるせっけん運動等により合成洗剤の使用、販売、贈答の禁止を盛り込んだ「琵琶湖条例」と呼ばれる、画期的な環境保全政策を実現した実績のある県です。公害の責任を企業や行政だけに押し付けず、市民のライフスタイルを変えることに踏み込んだこの条例は、SDG'sの先駆けともいえる取組みだと言えるでしょう。開催趣旨に書かれている「平和で持続可能な地域であり続けるためには、先ず私たち一人ひとりが自分事として取り組めること…過去から学び…次世代に繋ぎ…新しい価値を見いだしていく必要があるのではないのでしょうか？」という問題意識のもと、市民レベルの実践を共有し、地域でのユネスコ活動の在り方を学び合うプログラムが用意されました。

基調講演には、澁澤寿一氏(NPO 法人 共存の森ネットワーク理事長)が「人の暮らし方で地球は変わる あなたはどう生きますか？」を演題に、日本の資本主義の父と呼ばれる曾祖父、澁澤栄一の話を変えながら、ユーモア溢れる語り口で会場を魅了されました。

江戸末期の人々が鎖国という時代背景の中、限られた資源を循環させながら、自然共生型の農業社会を作り上げていたこと。澁澤栄一の経済活動と倫理(道徳)は両立すべきであるという考えは、持続可能な社会のベースであることなどを指摘されました。JICA 専門家としての途上国での経験や国内での里山保全、奥山の環境修復活動等を通じて学んだ、先人の知恵の中にある自然との共生思想を次世代に伝える活動などのお話も興味深く、「あなたはどうか生きますか？」という問いが胸に深く突き刺さる講演でした。

午後は「多文化共生の推進」「世界遺産・地域遺産の継承」「平和の文化の実践」の3分科会に分かれて、事例発表と意見交流が行われました。私が参加した「多文化共生の推進」分科会では、長浜ユネスコ協会の30年にわたる日本語教室活動の事例発表が行われ、京都ユネスコ協会の活動とも通じる内容を興味深く聞きました。参加された各地のユネスコ協会でも、外国人問題は時期を得た話題で、活発な意見交流が行われました。京都と違い、労働者としてやって来る外国人がメインの地域も多く、最近目立つ外国人排斥問題とも関連し、様々な経験や意見が交わされました。日本社会において国際交流経験の長いユネスコ協会が、これからの多文化共生社会で平和で持続可能な地域づくりの担い手として、どのように活動すればよいのかを考えさせられた近畿ブロック研究会でした。



分科会風景



パネルディスカッション

第 8 1 回日本ユネスコ運動 全国大会 i n 金沢に参加して

加藤 功治

2025年10月18日（土）に石川県金沢市の石川県立音楽堂邦楽ホールで第81回日本ユネスコ運動全国大会が開催されました。全国から300人を超えるユネスコ協会会員などが参加しましたが、近畿からの参加者は少ないようでした。京都ユネスコ協会からは私だけの参加でした。

メインの2時間のパネルディスカッションは「日常 能登半島の創造的復興を目指して」をテーマに昨年元旦の能登半島地震やその後の復旧にかかわられた地元の3市3町の40歳代の方によるディスカッションでした。地震直後に避難所のチーフをされた方から、震災情報は行政より民間から早く多く伝わる、避難所で能登の男尊女卑が強い事が多々見られたと言う。その後の20カ月の復興、今後の対策について話された。

石川県ユネスコ協会の活動や石川県のユネスコスクール（全国のスクールの8%が石川県に有る）の実践報告、日本ユネスコ協会連盟などの能登地震被災者への支援はこの大会では全く出なかった。

1日開催（12時半から17時30分）でしたので、記念講演や実践報告は無く、パネルディスカッションだけでした。開閉会式やジュニアコンサート、こどもによる伝統芸能（能・狂言）の時間が長く、内容の有るプログラムが少なく物足りない全国大会でした。

私は懇親会に参加せず、翌日のエクスカージョンに参加しました。エクスカージョンは「能登応援旅」と「白山手取川ジオパーク」の2つが企画されていました、私はジオパークに参加しました。40人ほどの参加者（大型バス満席）、近畿からは私たちだけでした。ホワイトロード（白山スパー林道）に入り、長い、歩きにくい階段を降りて、ふくべの大滝の近くでバイオリンの演奏を聞きました、谷の木々を見ながら、水の音とバイオリンのメロディーの調和が良かったです。滝の真下から見るふくべの滝は迫力がある、噴泉（岩の隙間から温泉が吹き出している）を見る。13時半に中宮展示館の庭でジオ弁当（山村の食材で作られた幕の内）、遅い昼食をする。河岸段丘に有る錦ヶ滝を見る、水田や蕎麦畑の広がる河川段丘の下の下に有る。滝の下へ降りると、上の田や畑と全く異なる溪谷に溪流が流れている。2人のガイドが案内してくれるが話がくどい、石川ユ協の人が5人ほど同行しているが、案内していると言う意識が無い。17時に金沢駅で解散。



次回の第82回全国大会は2026年11月に福岡県の久留米ユネスコ協会が、久留米市で行われます。京都からも多数の方が参加されますように願っています。

京都ユネスコ寺子屋

旅の学校 2025 を愉しく実施！

吉田敦彦

■芸術家たちの生活と創造の場、訪れた人が自然やアートと触れ合う《匠(たくみ)の聚(むら)》。このアトリエで長年創作活動を行ってきた日本画家・岸上ゆかさん（京都ユネスコ協会理事）のアレンジで、子どもたちが親子で自然と交わりながらアート体験のできる一泊二日の小さな旅を、2025 年 8 月 28 日～29 日に実施しました。

■一般の宿泊参加者は、幼小中高校生 10 名、保護者 9 名。協会のユース 3 名（高校・大学生）、スタッフ 4 名。総勢 26 名で愉しく充実した学びができました。

■1 日目、奈良県吉野郡川上村の名瀑・蜻蛉の滝に散策したあと、



岸上ゆかさんのアトリエ



絵具作り

《匠の聚》のアトリエを見学し、研修室でワークショップをしました。今年は、自分で拾った岩石を乳鉢で磨り潰して自然素材の日本画の絵具を創り、それで好きな絵を描くワークです。夜には、森の昆虫観察のオプションもありました。2 日目は、吉野伝統の紙すき和紙を使って造形作品をつくるワークショップを午前中に実施し、午後からは、不動窟鍾乳洞の探検を楽しみました。

■参加者の感想より

○「いしからえのぐができるのははじめてでした。すごくてのしかったです。わし（和紙）からなにかつくるのってさいしょはむずかしいな～ておもいました。でもすぐにたのしいきもちになりました。」（2 年生）

○まさか石から絵の具ができるなんて全然しなくてすごかった。絵を描くときも自分のできた絵の具を見て、描きたい絵が浮かんできて、楽しかった。（小学 2 年）

○特に楽しかったのは、石を潰すところでした。初めてやったので、もう 1 回してみたいです。洞窟はすごく中は冷たくて、すごく大きかったからびっくりしました。（8 歳）

○夜の観察会の子どもの満足度は MAX で・・・「地面に普通に大きなカブトムシが歩いていたのが一番びっくりした」（小学 6 年）。「ヤスデがブラックライトで光ったことが一番驚きでした。ガがあんなに大きいこともビックリでした」（2 年）

○和紙を切る時、ふわりとした感触が気持ちよかった。そして、アリを作りたかったけど、出来上がったらいもムシみたいになってしまって面白かった（2 年生）。

○匠のむらは、山々に囲まれながら、自然素材に触れて自分を表現するという、何とも癒される場でした。その素材が今いる場所で採れる身の回りにあるものでできているという事が、太古の昔からなされてきた芸術活動の追体験をさせて頂いたようで、大変貴重でした。

○11歳の息子と家族3人で過ごした二日間は、自然とアートが心地よくつながる豊かな体験となりました。滝の迫力を味わったあと、岸上ゆかさんのアトリエで岩絵の具を作り日本画を描く流れは、とても自然で感動的でした。制作途中の作品から伝わる熱量に触れ、息子も「自然の中に描く材料がある」と発見し目を輝かせていました。これをきっかけに乳鉢を購入し、また親子で山歩きをしながら絵を描いてみたいと考えています。夜の昆虫観察や、翌日の和紙を使った立体造形の体験も忘れられません。和紙作りが今や貴重であるというお話を伺い、その技術の尊さを改めて胸に刻みました。

○これらの経験や活動が一貫して自然由来だということ、そして、それらの歴史や成り立ちを知れたということが、とても貴重でかけがえのない時間だったと感じます。

さらに、それを大人も子どもも関係なく、家族全員で楽しめたということが、これらの活動の価値をさらに高めてくれていました。活動する中で、感じることをシェアしたり、共感しあったり、助け合ったり、家族の絆が深まる2日間だったと思います。

○ユネスコの設立話を聞いたことで、今自分が置かれている状況の有り難さや自分の進むべき方向、子どもを導く方向の大切さなど、改めて考えることができました。この日常が当たり前ではないことや、今もなお戦禍にいる人がいる現実、そんな中で私には何ができるのか？改めて考える機会を与えられました。アートを通じて平和を考える。壮大なテーマに今もなお、考えを巡らせているところです。子どものイベントから世界平和へつながった、大人も子どもも忘れられない体験となりました。

○日本でさえ戦争前夜と囁かれ、しかし現実世界では一見無知、無関心の人々という、誰を頼っていいか分からない暗澹たる世において何がよすがとなるのだろうと思った時、自分がまず世界を丁寧に愛する心を持つしかないのだと思いました。歴史や自然の恵みに裏打ちされた芸術を、作り手の手元を見ることによって体験した人は、しない人よりヘイトに流されにくいのではないのでしょうか。芸術はヘイトの対極にある存在と言えるのかも知れません。生むことを愛し、育んだものに感謝する…草木、石、貝、虫…どれも自然にあるもので芸術は生まれたんだなと思うと、逆に昔から必要とされたエネルギーなのだとも思いました。 今国連の理念が余りにもないがしろにされているような国際情勢の中で、京都ユネスコ協会の一つの闘いを体験できて本当に有意義でした。

京都ユネスコこども食堂

西川紹寛

花脊プロジェクト

10月11日に左京区花背地域にて「京都ユネスコこども食堂 in 花背」を開催しました。日本の里山で自然と共生する持続可能な暮らしを学ぶ活動「Hanase Field Lab.プロジェクト」と京都ユネスコこども食堂の食育プログラムをコラボさせた催しです。

参加者20名は花背地域で狩猟および養蜂活動を行う狩猟グループの上野勝氏の指導を頂きながら、日本在来種のニホンミツバチの採蜜体験や棚田の見学および稲刈りに挑戦しました。京都の「奥座敷」花背で自然と人との共生を学ぶ貴重な経験ができました。



ピッツア作り体験&パスタ教室+The Big Draw

11月1日土曜日に京都府立植物園北門傍のイタリアンレストラン、「IN THE GREEN」さんのご厚意により子供たちに料理教室を開いていただきました。前日からの雨も上がって爽やかなイベント日和となりました。

まずは保護者も含め総勢22名が午前9時半にレストランに集合。お店のスタッフの方々の丁寧な指導で、初めて触れるふわふわのピザ生地を延ばしたり、スパゲッティのミートソースを炒めたり。最後は出来上がったピザとスパゲッティをみんなで美味しくいただきました。

お腹が膨れたころ植物園内に移動。結城ひろみ先生によるミニツアーでこの時期ならではの植物の楽しみ方をご紹介します。そのあとは大芝生で写生大会、「The Big Draw」。“よく観察して描く”というジョン・ラスキンの思想に則って梁川健哲先生の指導のもと、みんな思い思いに好きな道具を使ってのびのびと絵を描きました。

秋の柔らかな日差しを浴びて食べたり描いたりと盛りだくさんの1日となりました。



「The Big Draw」



京都ユネスコこども食堂

京都ユネスコこども食堂は昨年8月より北山のKITENに移りました。

開催日は毎月第4土曜日、時間は15:00-18:00です。

場所は地下鉄・北山駅1分、北山ビルの2階 <https://kiten.space/>

居場所作りとしてトリノスこどもアートサロンもこれまで通り開きます。

おとな食堂の「へーべ」は時間を15:00-21:00に時間を広げて

皆様のお越しをお待ちしています。

申込み: jsa@dune.ocn.ne.jp 西川

カンボジア・スタディツアー報告交流会(ユースセミナー)～古矢柚月さんを囲んで～

香戸美智子

2025年12月27日(土)の午後、カンボジア・スタディツアーの報告交流会が、京都ユネスコ協会 旧京都市立山王小学校ふれあいサロンにて開催されました。これは、京都ユネスコ協会が推薦しその後審査を経て選ばれた古矢柚月さん(学生会員)が、同年7月末から8月初めにかけて、日本ユネスコ協会連盟とかめのり財団共催の第9回高校生カンボジア・スタディツアーに参加してきた報告と交流会です。中学生・高校生・大学生・大学院生・一般のユネスコ協会会員・常任理事の有志等々、計24名の参加がありました。

古矢さんの報告は、カンボジアにおける貧困や格差、教育、医療、そして歴史にかかわることでした。日本ユネスコ協会連盟が行う世界寺子屋運動によって建設された「寺子屋」(農村地域に住む低所得家庭の子どもたちが働きながら学べる場所)を訪れ、子どもたちとともに学びや遊びを一緒に分ち合いました。そこでは大人への識字教室も行われていました。続いて、無料で医療を提供する独立非営利の小児専門病院を訪問。そこでは医療費が負担になる現状や文化などを知るとともに、地域住民への医療教育がなされていることも学びました。一方、古矢さんの報告では、これらの貧困や格差は歴史的な背景によるものが大きいとして、スタディツアーではプノンペンにある虐殺博物館とキリングフィールドを訪れたことを取り上げました。折しも同時期7月、UNESCOはこれら関連施設を「世界遺産」(負の遺産)として登録を発表しました。私たちの住む日本とは異なる、発展途上国の現状、そして平和の意味を深く考えさせる、古矢さんの報告でした。

なお、その後には交流会として、高校生(京田辺シュタイナー学校・巽さん/京都国際フランス学園・鳥川さん)を皮切りに意見などが積極的に述べられ、全員が周りの人と話し合い、最後に発表し合って気持ちや考えをシェアしました。国際NGOの前身カンボジア難民救援会で活動した方(中川さん)も来られ、現在とは違う当時の背景としての国際情勢なども説明されました。また一般会員等からは、同時代の日本の沖縄のことについてや、教育というものの大切さ、これからの若者に期待することなどが積極的に語られ、生徒学生たちとともに一般の人たちともすてきな交流の場ともなりました。

古矢さんからのカンボジアのお土産、ココナッツ菓子も少しでしたが配られ、また途上国支援の象徴としてフェアトレードの紅茶やコーヒーもあり、年末の午後のひとときを皆であたたかく過ごしました。全体として、それぞれの人にとって、何か学びや気づき、これからのことを考えるきっかけにもなったようで、実りある報告交流会となりました。



この機関紙の表紙に古矢さんと現地の子供たちとの交流の写真を掲載しました。

京都ユネスコスクール高校研修交流会

香戸美智子

2025 年 11 月 15 日(土)に京都のユネスコスクール高校研修交流会が開催され、京都ユネスコ協会メンバーが参加・協力をいたしました。これは、ASPUivNet（ユネスコスクール支援大学間ネットワーク）加盟大学としての京都外国語大学で行われたもので、京都府内の高校生や教員 25 名が参加し、京都ユネスコ協会からは加藤事務局長、杉山常任理事、ユースメンバー(鬼澤さん)が参加しグループワークで高校生へのアドバイス等々をいたしました。(参加校〈五十音順〉京都外大西高等学校、京都市立紫野高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、聖ヨゼフ学園日星高等学校、平安女学院中学高等学校)（なお、京都ユネスコ協会は、2017 年に京都外大が ASPUivNet に加盟した当初からの行事に参加しており、コロナ禍でしばらく途絶えていましたが、今回数年ぶりに協力交流を再開しました。)

テーマは、2025 年がユネスコ憲章採択第 1 回総会開催から 80 年、世界遺産条約正式発効から 50 年という節目の年ということから「世界遺産」。

第 1 部は世界遺産アカデミーの宮澤光氏による「世界遺産とは～保護活動取り組み～」と題しての講演でした。ユネスコ憲章(1945.11)の前文「戦争は人の心の中に～」というくだりは有名であるが、そのあとにすぐ続く「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界中の人々の間に疑惑と不信を引き起こした～」が紹介され、世界遺産の重要性が語られました。

第 2 部では、高校生と大学生（日本人学生・外国人留学生）によるグループワークを実施し、京都府の世界遺産保護のために自分たちに何ができるか等々について話し合い、発表を行いました。さまざまな角度から平等院・下鴨神社・延暦寺などについて考え、京都ユネスコ協会のメンバーも各グループに京都の地理や歴史および考え方のヒントなどについて促しや助言等々を行いました。皆、協力し合いながら創造的なアイデアを出すことができ、知的に充実した楽しいときを過ごすことができました。



掲載許可有

事務局で英語教室を開講して約9年、[ひと・まち・交流館]では約10年が経過しました。受講生は2教室合計で15名、その大半と講師は後期高齢者ですが、12月から若い女性2人が受講生となり、協会の会員にもなりました。

開講当初からの受講生 Mさんは、She seems to be on the shady side of 80. のようですが、非常に学習意欲が非常に高く、2教室で受講されています。殆ど皆勤なのは驚くべきことです。

Mさんにとって英語教室は一つの学習の場のようなです。講師の私にとって英語学習の場は日常生活です。目にしたもの、耳にしたこと、疑問に思ったことなどを英語で表現し、わからなければ辞書や AI で調べます。英語学習の教材は日常生活でよく利用する市バスや地下鉄の中でよく見つけます。例えば、市バスの入口に[足元の黄色い部分に立たないで下さい]と書かれた日本語があります。その下に、Please stand away from the yellow strip by the door. Thank you. と英語で書かれています。私はこの訳には英作のヒントが幾つか含まれていると思い、とても気に入っています。そして教材として時々受講生に紹介します。私は学習の場の一つであるバス内の英文を見て楽しんでいます。

最後に一つお知らせです。来年2月15日(日曜日)、2教室の受講生は、ひと・まち・交流館で開催される[第15回きょうボラふれあい祭]で、[You are My Sunshine.] , [Oh, My Darling, Clementine.] , [My Hometown] の3曲を歌う予定です。



世界文化遺産

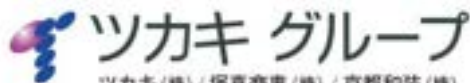
賀茂御祖神社 (下鴨神社)

宮司 新 木 直 人

〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町5 9

TEL(075)781-0010

<http://www.shimogamo-jinja.or.jp>



ツカキグループ
ツカキ(株)/塚喜商事(株)/京都和装(株)
(株)タムラ/(株)京朋

西陣織あさぎ美術館

西陣織あさぎ

丹後クラエィティブセンター

丹後クラエィティブセンター

代表取締役社長 塚本 喜左衛門

グループヘッドオフィス

京都市下京区烏丸通仏光寺上ル二帖半敷町661番地

〒600-8412 TEL 075-341-3547(大代表)

<https://www.tsukaki.com/>



取締役社長 福井 正興

京都府木津川市山城町上筒束作り道11 TEL 0774-86-3901

品質本位の茶づくり



株式会社 丸久小山園 代表取締役 小山元也

〒611-0042 宇治市小倉町寺内86 TEL 0774-21-3151

美術品販売・展示会・イベント・講演会の企画運営・ホームページ制作

広告制作・カルチャー教室・貸しスペース運営

Au rendez vous des artistes

ランデヴーギャラリー&カフェ

株式会社 アークコーポレーション

代表取締役社長 山中満子

〒602-8158 京都市上京区下立売智恵光院西入 TEL.075-821-7200

営業時間 11:00~18:00 無休/月曜のみ予約制



世界文化遺産

賀茂別雷神社(上賀茂神社)

名誉宮司 田中安比呂

宮司 高井俊光

〒603-8047 京都市北区上賀茂本山 339

TEL (075)781-0011

<http://www.kamigamojinjia.jp>



韓 昌 祐

代表取締役会長

株式会社マルハン

パチンコ、銀行、ゴルフ、フード

東京本社/東京都千代田区丸の内1-11-1

パシフィックセンチュリープレイス丸の内 28 階 〒100-6228

TEL. 03 (5221) 7777 (代) FAX. 03 (5221) 7186

京都本社/京都市上京区出町今出川上る青龍町

231 番地 〒602-0822

TEL. 075 (252) 0011 (代) FAX. 075 (252) 001

京都ユネスコ協会 監事

長 野 博

京都ユネスコ協会 事務局長

加 藤 功 治

大阪公立大学名誉教授(客員教授)

同志社大学嘱託講師

日本ユネスコ協会連盟評議員(前理事)

京都ユネスコ協会 会長

吉 田 敦 彦

〒619-0241 京都府相楽郡精華町祝園神木段 21

今後の活動予定

1月18日	新年初顔合わせ会 能楽師河村晴久氏の講話と懇親会 祥晴庵
3月27日～29日	沖縄体験旅行 日ユ主催 (京都より学生5名と引率者が参加)
5月23日、24日	芸術展 堀川御池ギャラリー
5月	理事会 元山王小学校 プレイルーム
5月	総会 懇親会
8月	旅の学校 奈良県川上村
10月	ユネスコ運動全国大会 福岡県久留米市
10月26日	近畿ブロックユネスコ活動研究会 大阪市
10月下旬	自然観察展 元山王小学校体育館

常任委員会	毎月1回	事務局又はWEB
こども食堂	第4土曜日	北山 KITEN にて
日本語教室	第2土曜日	事務局にて
	第4土曜日	北山 KITEN にて
学習ひろば	第2土曜日	事務局にて
	第4土曜日	北山 KITEN にて
京都寺子屋	毎月2回	元山王小学校和室
ユースセミナー	年4回程度	の開催



KYOTO UNESCO ASSOCIATION
京都ユネスコ協会

〒601-8004 京都市南区東九条東山王町27 元京都市立山王小学校内

TEL/FAX 075-632-9925

E-mail kyoto@unesco.or.jp

(平日 13時30分～16時)

URL <https://kyoto-unesco.jp/>